

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 木曜日 1・3 校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	日本語 I (Advanced Japanese I)		
対象年次 1, 2年次	講義形態 演習	教室 環境科学部 229 番教室	
対象学生(クラス等)	留学生・全学部	科目分類 留学生用科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:高野泰邦 /Eメールアドレス:ytakano@nagasaki-u.ac.jp /研究室:留学生センター /TEL:819-2241 /オフィスアワー:金曜日 10:30~12:00			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500 文字) 授業のねらい: 現代日本社会が抱える諸課題をテーマにした文章を素材に、大学生活に必要な日本語の総合的な技能(読む力、考える力、調べる力、書く力、話す[発表する]力)を身に付けさせる。 授業方法: 学習目標が具体的に理解できるように以下のような方法で各授業を展開する。①各テーマについて背景となる情報を提供する。②難解語句などをわかりやすく説明する。③本文を適当な長さに区切って各学生に音読させ、その部分の要旨を述べさせる。④必要があると判断した場合は質問等をして理解しているかどうかを確認する。⑤テーマ全体について感想等を述べさせる。なお、発表のための準備として、テーマを決めさせ作文を書かせ、数回にわたり作文を添削する、発表の練習をする等の活動を経て、発表させる。 授業到達目標: 論理的に構成された文章が読める。論理的に考えることができる。あるテーマについてまとまった考えを書くことができる。自分の意見を論理的に述べるができる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字) 授業内容(概要): 現代日本社会を反映した文章を読み、現代日本社会や日本文化についての理解を深めるとともに、それらについて学習者各自が論理的に組み立てた考えを発表する機会を提供することにより、学習者に日本語の総合的な表現能力を身に付けさせる。 各回2コマ 第 1回 オリエンテーション/私たちにとって国とは何か(1) 第 2回 私たちにとって国とは何か(2) 第 3回 教員の質を向上させる (1) 第 4回 教員の質を向上させる(2) 第 5回 有効なニート支援とは(1) 第 6回 有効なニート支援とは(2)/犯罪少年の更生は可能か(1) 第 7回 犯罪少年の更生は可能か(2) 第 8回 労働問題に盲点はないか(1) 第 9回 労働問題に盲点はないか(2) 第10回 日本的経営の極意とは(1) 第11回 日本的経営の極意とは(2) 第12回 表現演習 第13回 表現演習 第14回 発表会・質疑応答 第15回 発表会・質疑応答/総まとめ/学生による授業評価			
キーワード	日本社会の諸相、読む、考える、書く、意見を述べる		
教科書・教材・参考書	「日本の論点2007」から抜粋したものなど		
成績評価の方法・基準等	予習10%、授業への参加度30%、作文30%、発表30%を総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)	日本語能力試験1級合格程度の日本語能力を有する留学生		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	上級日本語		
備考(準備学習等)	1 校時目と 3 校時目の両方とも出席すること。一方のみの出席は認めない。		